日本産業衛生学会東海地方会
地方会ニュース

発行所　東海地方会ニュース編集事務局
〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1
愛知医科大学医学部衛生学講座内
電話（0561）62-3580
FAX（0561）62-3580
発行責任者　柴田　英治

題字　皿井　進筆

巻　頭　言

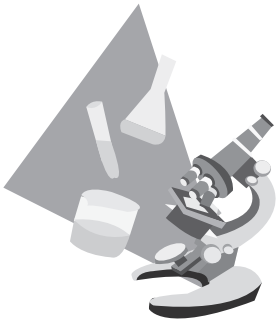
数量的データと質的データを統合する混合研究法の潜在力

浜松医科大学健康社会医学講座　**尾　島　俊　之**

学術研究推進委員会委員長を昨年度より拝命し、その活動を開始しました。日本産業衛生学会は、研究職だけではなく産業保健現場の会員が多いというユニークな学会です。その現場のみなさんによる調査分析を推進し、地方会学会等でより多く発表していただこうということで活動しています。

調査分析や学術研究と聞くと、疫学研究などの数量的データを扱ったものをまず思い浮かべる方が多いことでしょう。もちろん、それも重要ですが、数量的データは、詳細な状況がわからない、想定していなかった項目のデータはとれないという限界があります。そこで、最近そのような数量的データの他に質的データにも注目し、それらを統合して分析しようとする「混合研究法」が注目を集めるようになりました。混合研究法に関する書籍がいろいろと出版されるようになり、また日本混合研究法学会のホームページもできましたので、ご興味のある方はご参照下さい。質的データの収集方法としては、観察・インタビュー・座談会・資料調査などいろいろとあります。産業保健活動の原点は職場巡視だと私は考えていますが、これはまさに観察になります。また職場巡視中にそれぞれの現場で働く方々と言葉を交わしたり、また保健指導の際に聞いたりした話などは、産業保健活動の改善に役立つ情報が多数有り、インタビューによる情報収集として貴重です。

職場の状況はそれぞれ異なることと思いますが、職場のデータの効果的な活かし方や、より良い産業保健活動のグッドプラクティスなどは、お互いに参考になることが多いので、より一層、情報交換して行ければと思います。学術研究推進委員会として微力ながらそのお手伝いができればと考えていますので、ご相談等ありましたら、お気軽にご連絡ください。



開　催　報　告

平成28年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会

トヨタ自動車株式会社安全健康推進部　**大久保　浩　司**

平成 28 年 7 月 2 日、中部大学名古屋キャンパスで、平成 28 年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならび研修会が開催されました。梅雨の合間の暑い日にもかかわらず用意した 140 部の抄録が不足したほどの皆さんに来場頂きました。

総会は地方会事務局のお力添えで、出された議案は滞りなく承認されました。

研修会の方は柴田地方会長と連携を取りながら準備を進めて参りました。これまで教育講演が主でしたが、今回は思い切ってグッドプラクティス（GP）を集めたもので会員の皆様に明日の実務につながる研修会にしたいと考えました。柴田会長も産業衛生学会の使命としてアカデミックを追求することと実学としての情報を、提供することの 2 つがあるとして賛同頂きました。メンタルヘルスに関する GP を紹介する研修会を行うこととして、地方会の理事の先生方に早速 GP を紹介して頂く様にお願いしました。最終的には 7 人の先生方を紹介頂き、GP を紹介して頂きました。

予防医学の原則として 1 次予防から 3 次予防に該当する GP を提供頂くとともに、それ以前として制度作りもメンタルヘルス対策として重要でありますので、学会員以外の先生にも講演をお願いしました。

まず最初に、社会保険労務士の梛野先生は担当された企業で就業規則の網をくぐって、休業を繰り返す従業員に対し就業規則を改正し休業をしにくくすることにより復帰を促した GP を発表頂き、制度作りの重要性を示して頂きました。続いてパナソニックの塚田先生に会社の中でメンタルヘルス体制を構築していった経過をプレゼンテーションして頂いた上で、平成 27 年 12 月より法制化されたストレスチェックを先取りして、その活用事例を示して頂きました。続いて杉藤先生には「職場の活力向上プロジェクト」と題し、健康診断時にストレスチェックを利用し、二次予防に加え職場環境改善を行ってきた事例を示して頂きました。高崎先生には職場・人事・産業保健スタッフによる「心身対策ミーティング」を毎年 1 回 1 時間以上開催し、欠勤・休職者の管理、要就業制限者・要配慮者の管理、健康度調査の分析結果と対策検討、従業員の業務適性に関する意見交換等の認識の共有化を図った事例を示して頂きました。吉田先生には精神科医をベースとした産業医として職場の状況を主治医に伝え、連携が有効であった事例を示して頂きました。秋山先生には職場風土の違う 3 社が合併後、人事労務部門と連携しメンタルヘルス対策体系を形成していった事例を示して頂きました。山本先生には常勤産業保健スタッフがいない分散事業場に対して従業員支援プログラム（EAP）を利用し復職支援を円滑に行った事例を提供して頂きました。

いずれの先生もわかりやすく、事例だけに現実性が高く、大変理解しやすいプレゼンテーションでした。その後、具体的、実践的質疑応答が行なわれました。

今回の研修会の GP が参加された会員の皆様の明日に参考になり、同じような GP が成され、それぞれの会社の従業員の皆さんに有意義であることを期待して閉会いたしました。

総会での地方会長挨拶

東海地方会産業衛生技術部会平成27年度特別企画
－化学物質リスクアセスメント義務化を控えて－

株式会社富士清空工業所　**奥 田 篤 史**

平成 27 年 1 月に本学会産業衛生技術部会「個人ばく露測定に関する委員会」が「化学物質の個人ばく露測定のガイドライン」（以下、ガイドライン）を発表したことを受け、東海産業衛生技術部会では、平成 27 年 12 月 5 日に 7 回目となる特別企画パネルディスカッション「化学物質の個人曝露測定とリスクアセスメント」を岐阜市で実施しました。

メインパネリストにガイドラインの作成委員を務められた早稲田大学の村田克先生をお迎えし「化学物質の個人曝露測定の原則と方向性」というテーマでガイドラインの内容や考え方についてご講演いただきました。中でも、個人ばく露測定を実施するにあたり、事前調査が重要であり、事前調査を綿密に行うことでリスクアセスメントにつながっていくことなどのご紹介がありました。

続いて、中央労働災害防止協会中部センターの鹿島聡子先生に「現場でのリスク管理に関する諸課題」、株式会社大同分析リサーチの新谷良英先生に「現場からみた個人曝露測定の課題」というテーマでご講演いただきました。両先生は多くの作業環境測定を通じ、現場の状況に精通しておられるため、ガイドラインの内容を実際の現場にあてはめると、どの様な課題や疑問が生じるか、現場目線でのご講演をいただきました。

鹿島先生からは VOC モニターを活用した有機溶剤のばく露状況の見える化に関する取り組みについてご紹介がありました。この取り組みは、ばく露状況の事前調査で大いに活用できるほか、作業者の教育用にも利用が期待できるものでした。また新谷先生からは、個人ばく露測定を実際の現場で取り入れようとした際、測定対象物によってはサンプリング装置が作業の障害になる恐れがあるというご指摘もありました。作業者の負担がより少ないサンプリング装置の開発が、個人ばく露測定の普及のカギになるのではないかということが示唆されました。

本講演会は、平成 27 年 9 月には「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針（いわゆる化学物質リスクアセスメント指針）」の公示もあり、平成 28 年 6 月から義務化される化学物質リスクアセスメントに向けて安全衛生分野の制度が大きく変化しているさなかの開催でした。そのため当日は、本地方会の先生方をはじめ、岐阜労働局および監督署、大学の安全衛生担当、岐阜近郊の中小企業の安全衛生担当者、作業環境測定機関などから 65 名の参加がありました。最後の全体討議ではフロアーから多くの質問やご意見が寄せられ、化学物質管理への関心の高さがうかがえました。同時に、化学物質管理に関する情報を求めている中小企業が多いという印象を受けました。これからもこの様な場を通じて、化学物質に対する安全衛生知識や情報の普及に努めなければならないと感じました。

追 悼 記 事　飯 田 英 男 先 生 を 偲 ん で

飯田英男先生（元東海銀行 産業医）が平成 28 年 7 月 22 日に亡くなられました。
慎んで弔意を表し、寄せられた追悼文を掲載させていただきます。

故 飯田英男 先生

平成６年全国産業安全衛生大会（名古屋）にて
左から、故 森川利彦先生（当時 三菱電機）、
故 飯田英男先生（当時 東海銀行）、故 岩井淳先生（当時 三菱重工）

飯田女学校の卒業生

元東海銀行　保健師（現ソニー健保）　**伊 藤 光 世**

飯田先生との出会いは、学生時代、産業保健の講師としての出会いから始まります。産業看護の分野で活躍されている輝く女性に憧れて、入行した私ですが、彼女が輝いていた理由がそこにありました。飯田先生が組織された先進的なチーム医療がなされている素晴らしい職場があったのです。当時そこは「飯田女学校」と呼ばれていました。

先生から学んだことは数多くありますが、私が大事にしていることを紹介したいと思います。一つは「シェアードリーダーシップ」です。

飯田先生率いる健康管理メンバーは総勢 40 名！病院並みの規模を持つ、県下でも先進的な健康管理活動を実施していた職場でした。今では当たり前になっているチーム医療ですが、それぞれの職能が与えられた役割を持って動くこと、職能の違いはあってもリーダーシップを発揮していくことが重要であり、そのチーム医療が医療の貢献につながるということを当時すでに、しっかりと実践されていました。いつも乱れない、組織づくりで、リーダーを育て、個々のメンバーが自身の役割を果たす責任感とやりがいを持ち、それをリーダーが支え、さらにリーダーを支えるバックアップがあって、力を発揮できていたのだと思います。それぞれの課題に対して「私が責任をとるから、自分で考えて、発案しなさい」と任せてくださり、出来たものに対して適切な助言があり、自由に考え実行する中にも安心感がありました。

そしてもう一つは「カウンセリングマインド」です。メンタルヘルスには早くから力を注がれていた先生ですが、独立したカウンセリングルームの設置や診療体制、組織はさることながら、産業看護職に対する教育にも熱心でカウンセリングマインドを大事にされ、相手に対する思いやり、対象者に寄り添う気持ちを学びました。相手の思いをしっかり聴くこと、相手の立場を理解すること、言葉を紡いで丁寧に伝えることは、その後先生のもとを離れて、訪問健康相談の事業に携わった時にも、そこで働く相談員にしっかりと伝わり、彼女たちはその事業に関われたことの尊さを学んでくれました。

いつも優しく我が娘を育てるように、人としての教養と作法をお教えいただいたことも「学校」という呼ばれ方をした所以でしょう。

飯田女学校の卒業生であることが私の誇りです。
その学びはこれからもつながっていきます。
先生、安らかにおやすみください。
ご冥福をお祈りいたします。合掌。

飯田英男先生を偲んで

三菱東京 UFJ 銀行健康センター（名古屋）　**寺　澤　哲　郎**

「飯田でございます」。飯田先生に初めてお会いしたのは、私が旧東海銀行健康管理センターに所長として勤務すべく、1 ヶ月の研修期間中センターに通い始めて、２～３日してからのことだったと思います。あのにこやかな笑顔で、やさしく出迎えて、歓迎していただきました。

当時まだ循環器科の臨床をしていて大学に席を置いていた私は、産業医学の何たるかも知らず、前の代務先の延長のような感覚で、伝統ある東海銀行の産業衛生に関わり始めました。ところが、飯田先生より、「いい先生に来てもらえた。」と本当に喜んでもらいつつ、産業医学のイロハを、決して押し付けがましいところなく、さりげなく教えていただくうちに、気がつくと、この職場でずっとやっていこうという気持ちに変わっていました。

愛知県産業医懇談会、日本産業衛生学会への参加の道筋をつけたり、専門医の取得を勧めていただけたのも先生でした。今この場所で活動できているのも全て飯田先生のおかげと、心より感謝しております。

飯田先生がずいぶん前（なんと昭和 35 年頃）よりメンタルヘルスに取り組まれ、東海銀行のすばらしい精神健康管理システムを作り上げられたことは、平成 26 年第 83 号地方会ニュースの巻頭言で申し上げたとおりですが、二度の銀行の合併を経た後も、そのシステムの骨格や精神はずっと大切に守られ、今でも健康管理センタースタッフたちの心のよりどころになっています。センターに古くからいるスタッフから、「飯田先生はあの時こう言われていた。」といったようなことを今でもよく聞きます。まさに健康センターの「守り神」のような存在です。これからもその教えを守って、先生に心配をかけることなく、健康管理を発展させていきたいと思っています。どうぞ、安らかにお眠り下さい。

飯田先生を偲んで！！

国際セントラルグループ　保健師　**和　田　晴　美**

飯田先生が逝去されたとの訃報のお知らせに接し謹んでお悔やみ申し上げます。

本来ならば同一職場でご活躍された荻田保健師にこの原稿をお書きいただくようお願いしましたが、すでに学会も退会され学会活動も退かれているためお断りのご連絡をいただき、急遽同時期に活動しておりました私が思い出しながら書かせていただきます。飯田先生の現役の頃のご活躍はご高名で日本産業衛生学会の当時教育資料委員をお勤めになっておられた関係上、私どもより当時の東海地区の先輩保健師諸姉の方々への産業看護職の活動や看護職自身の教育のあり方・方法や基盤等のご示唆をいただいていたような気がいたします。現在の看護職の方は当時東海銀行（現三菱東京 UFJ 銀行）に在職されていた方以外はご存知ない方がほとんどかと思います。当時名古屋鉄道に在籍しておりました私は諸先輩から産業看護職の活動についてご指導を受け、私と荻田両保健師がこの地方の産業看護部会の業務を引き継いで活動してきた経緯があり、当時の東海銀行へは産業看護の研修会・全国的な集会等の計画やシンポジストの選定等にご助言をいただくために、再三先生をお尋ねしたように思います。今日の産業看護部会の礎を築きあげるのにかなりのご助言をいただいた記憶があります。また当時の飯田先生自身、日本産業衛生学会東海地方会での活動・諸行事等幅広くご活躍され、特にメンタル面の対策に卓越してみえたように記憶しております。現在の私たちが活躍できるようになれたことを思う時、飯田先生を思い出さざるを得ませんでした。産業医としての飯田先生は産業看護職に日常生活での人間としてのアドバイスをいただいたようにも思います。

東海銀行を定年退職されたあとは愛知産業保健推進センター（現産業保健総合支援センター）等で後輩のために産業保健のノウハウをご指導いただいておりました。最後にご一緒の職場で勤務したわけではございませんので、書き足りない面が多々あるかと思いますが、その点はご容赦いただきお世話になりご指導いただいた先生のご冥福をお祈りする次第です。

近　況　報　告

近況報告

日立ジョンソンコントロールズ空調㈱　**杉　　敏　彦**

日立の業務用空調・冷凍機器を開発・製造している静岡市にある日立ジョンソンコントロールズ空調㈱の工場で、専属産業医をしている杉敏彦と申します。出身は福岡県ですが、信州大学を卒業し静岡にあこがれ、浜松医大や静岡県内の市中病院でまずは循環器内科医として12年間勤務しました。その後専属産業医に転向し、静岡市の三菱電機静岡製作所に5年半勤務し、以降現在の工場で計14年目の専属産業医勤務を迎えている者です。従業員約1,800人の産業医業務を始め、特殊健診や従業員の約半数の定期健診の実施実務、加えて工場内診療所医師として生活習慣病を中心に投薬業務を看護師2人・放射線技師1人・事務1人と共に行っております。

ポピュレーションアプローチへの苦手意識を少しでも和らげたく、ストレスチェックの集団分析結果に基づく職場環境改善のための従業員のワークショップでのより良いファシリテーターを目指すのを一応当面の目標としています。そして手前みそながらも一応得意と自負しているのはハイリスク（個人）アプローチにて、面談にて、自分自身の不肖・不出来はその全てを棚に上げ、口八丁手八丁的に、生活習慣やメンタルを仕事も絡め従業員と共に振り返り、従業員から仕事観や人生観を教えて貰い、少し気長に介入する事に一番の喜びを感じております。加えてメンタルでは、ご本人と上司・人事等会社とで目指すべきベクトルをいかに合わせるかに腐心しております。

専属産業医への転向はプライベートの充実が目的の一つだったのですが、幸いにもスイミング・ジョギング・サイクリングを至福の時間とさせて貰っており、他に宴会やスキーも満喫させて貰っており、大変有り難く感じております。

こんな自分ではございますが、今後とも皆様、折有ればどうか宜しくお願い申し上げます。

近況報告

ホトニクス・グループ健康保険組合　**内　野　保都美**

平成26年に日本産業衛生学会東海地方会に入会させていただきました、ホトニクス・グループ健康保険組合の内野と申します。被保険者数約3,900名、組合員8,000名弱の単一健保で保健師として従事しております。

平成20年度から特定健診・特定保健指導が義務付けられ、平成27年度からはPDCAに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るためのデータヘルス計画の策定が義務付けられました。医療費の適正化が重大な社会問題となっていることもあり、健保組合へ課せられた期待と使命は大きなものとなっています。

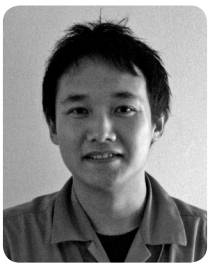
とはいえ、仕事のやり方は進化させながらも『個人のヘルスリテラシーの向上』という私の目標が変わることはありません。ヘルスリテラシーとは、自らが健康情報を獲得し、理解し、選択することができる能力です。自らの健康を理解し、何が必要なのかを正しく選択する能力を持つ集団は、自然に健康行動がとられ、その結果として健康状態が良い集団となります。1人1人のヘルスリテラシーを向上させるためには、地道な保健指導とポピュレーションアプローチを積み重ねていくことが必要です。それをいかに会社とコラボしながら推進していくか…。

そのためにも総会や研修会等を通して、学会から得られる様々な情報を今後の活動に生かしていきたいと思っております。健保組合にとっては苦しい時代は続きますが、東海地方会の皆様からはたくさんのエネルギーとノウハウをいただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会　員　の　声

新規入会のご挨拶

三菱電機株式会社　名古屋製作所　**大　倉　　暖**



この度、東海地方会に入会させて頂きました。平成20年に産業医科大学を卒業後、麻酔科医として病院勤務してきましたが、平成28年4月から三菱電機名古屋製作所の専属産業医として勤務しております。

健康管理の面では、産業医の第一歩を踏み出したとたんに、今までの手術麻酔とは180度異なる風景が広がり、まさに別世界に足を踏み入れてしまったという印象です。手術室では、相手は病気を抱えた患者、手術で病気を治すという共通の目的があります。患者とあいさつを交わした数秒後には全身麻酔という特殊環境に陥り、手術後に病室を訪問しても「誰ですか？」という感じです。さらに、手術後には良くも悪くも結果が明らかになります。一方で産業医は、元気な社員が相手で、「病識」という前提条件がないため、まず共通の目的や着地点を設定しなければいけません。社員の業務環境や家庭環境に至るまで幅広く情報を集め、月や年という長い期間をかけて修正を繰り返します。こちらがアクションを起こしても明らかな結果が見えず、「本当にこれで良かったのか？」と自問自答してしまう場面も多くあります。今のところ、「短距離走者」が突然「マラソン」に挑戦してしまったような状況です。

安全管理の面では麻酔業務と重なる部分も多く、患者を安全に手術室から送り出すためのリスク管理、緊急事態への対応などは経験が活かされる場面があると思います。職場巡視と称して、ものづくり現場を間近で見学し、熟練作業者から教えて頂くことが楽しみの一つです。

今は産業医初心者として、富田先生、水口先生の元で悪戦苦闘している状況ですが、いずれは余裕をもって「マラソン」を楽しめるよう、日々精進したいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

新規加入のご挨拶

一宮労働基準監督署　第２方面主任監督官　**大久保　克　己**

この度、日本産業衛生学会東海地方会に入会させていただきました大久保克己と申します。

私は以前、神奈川県内の作業環境測定機関で作業環境測定士として勤務していました。その頃、作業環境測定結果が第3管理区分に評価される多くの作業場で多くの従業員が業務に従事していることに疑問を持ち、4年余り後、労働基準監督官試験を受験し、平成5年1月に労働大臣（当時）より労働基準監督官の任命を受け、池袋労働基準監督署に勤務しました。その後、新宿労働基準監督署を経て、平成8、9年度は、労働省（当時）労働基準局安全衛生部環境改善室に勤務し、有機溶剤中毒予防規則及び粉じん障害防止規則の改正作業等に従事しました。この改正では、プッシュプル型換気装置を局所排気装置と同様に使用できるようにするものでした。

最近では、愛知県内の労働基準監督署を1年ないし2年ごとに移動しています。

平成20年3月に労働衛生コンサルタント（衛生工学）試験に合格しましたが、現在は、前記のとおり、労働基準監督官として勤務していますので、労働衛生工学に関することは、仕事の一部分で、おそらく皆様が考えていらっしゃる以上に会社の倒産、給料の未払いなど現実に発生しており、仕事の大部分は、労働基準法に関する行政指導などに追われています。

一方、昨今は、化学物質、メンタルヘルス、過重労働など産業衛生に関わるキーワードが社会的な問題として取り上げられ、愛知労働局等の行政運営方針でも度々登場し、今後、益々、社会的ニーズが見込まれます。

私は、本学会や研修会を通じて新たな知識を得たり、会員の方々と交流を深めたり、自己研鑽に努めたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

会　員　の　声

新規入会のご挨拶

三菱重工業㈱　大江西健康管理室　**土　肥　紗由美**

この度、日本産業衛生学会東海地方会へ入会させていただきました土肥と申します。

私は学生時代から産業保健の分野に興味を持ち、航空宇宙産業への憧れがあったことから、昨年より今の会社で働きはじめました。

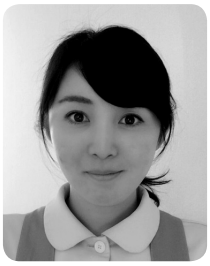
弊社の事業内容は様々で、当室はボーイング787主翼製作場を担当しております。従業員は18歳から70歳までの様々な年齢層の方が勤務しております。現場作業が多いため、男性の従業員が9割以上を占めております。また、単身赴任などで一人暮らしをしている従業員もたくさんおります。1人暮らしの従業員は食生活が乱れがちになってしまう為、保健指導時どのようにフォローをしていったらよいか、先輩看護職と常に相談をしながら行っています。保健指導後、結果に結びつかず、悩むこともありますが、その分、従業員が目標を達成できた際はとても嬉しく感じます。

また、弊社で働き始めて、一年経たないうちに現場で救急患者が発生し、心肺停止状態でAEDを使用する機会がありました。この事例を通して健康管理室の役割の一つでもある救急処置の重要性について改めて考えさせられました。実際に救急患者が発生するのは現場が多いため、従業員への救急患者発生時の教育がとても大切になります。救急患者発生時、現場の従業員が各所と連携、連絡を取り、どのように対処をしていったら良いかを継続して教育していくことも産業保健スタッフとして重要な役割であるとも感じております。

今後も従業員の健康を支援できるよう、産業衛生学会の研修会や学会に参加し知識を増やしていきたいと考えております。まだまだ知識面で不足している部分もあると思いますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

新規入会のご挨拶

新日鐵住金㈱　名古屋製鐵所　**豊　田　桃　子**



この度、日本産業衛生学会東海地方会に入会させて頂きました、豊田桃子と申します。看護大学を卒業後、平成27年4月より新日鐵住金名古屋製鐵所で保健師として社員の皆様の健康管理のサポートをさせて頂いています。

名古屋製鉄所は、優れた製造技術と商品開発力で多様なご要望にお応えする中部地域唯一の鉄鋼一貫製鉄所であり薄板、厚板、鋼管、鋳物銑を製造しています。サビに強い鉄、紙よりも薄い鉄、振動を防ぐ鉄、など全く新しい商品の領域を開拓してきました。自動車や飲料缶等、私たちの生活のいたるところに鉄は使われています。

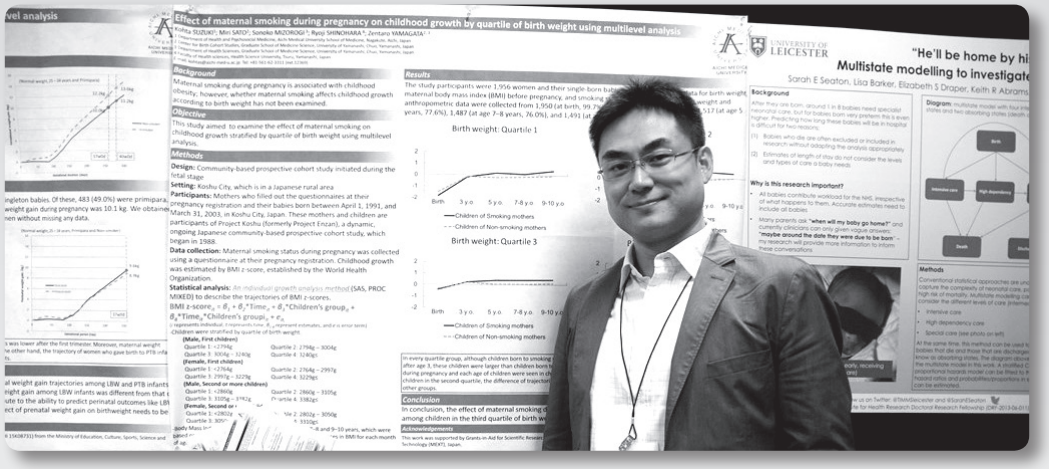
製鐵所では約3,500名の社員が働いています。鉄鉱石から鉄を作る工程にはたくさんの労働力が投入されています。工場で鉄をつくる人や工場内の整備をする人、製品の改善や開発をする人等職種、環境も様々です。また働いている年代も18歳～65歳の方まで幅広い年齢の方がご活躍されています。保健師になり1年半が経ちますが、健康意識も人それぞれであり、年代によっても健康に対する悩みや相談は違い、考え方や捉え方も様々であることを感じます。より健康になるためには対象者にあった方法でどのようにサポートできるのか日々考えることが重要であり、日々悩み対応しています。保健指導面談や仕事を通じて、学ぶことや仕事にやりがいを感じることも多いですが、反省する点も多々ありますが反省点を次の成長に繋げられるように努力いたします。

社会人として、また産業保健師としても2年目で知識不足な点が多いので、今後は社内だけでなく学会や研究会に参加して新たな知識を得ることで、社員の方一人ひとりの言葉に耳を傾け、元気に笑顔を絶やさず保健指導に励んで行きたいと思いますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

大　学　教　室　の　紹　介

愛知医科大学医学部　衛生学講座

鈴　木　孝　太



日本産業衛生学会東海地方会の皆さま、初めまして。小林章雄名誉教授の後任として、平成28年5月16日に教授として着任いたしました、鈴木孝太と申します。前任地は山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座で、主に母子保健に関わる疫学研究を行ってきました。産業衛生との関わりは、前任地で銀行や私立大学、半導体工場などの嘱託産業医、また、職域で健診医として活動していた程度でしたが、日本産業衛生学会には、柴田英治教授が地方会の会長、また梅村朋弘講師が事務局長として活動していることもあり、着任後入会させていただきました。これから、皆さまにご指導いただきつつ、産業衛生分野の研究なども進めていきたいと考えております。

さて、当講座は、私を含め教員5名、助手1名、大学院生3名で構成され、それぞれが専門性を生かした研究を実施しています。柴田教授は中小企業の安全衛生、室内環境と健康、そして、産業界で使用される有害物質による健康影響など、まさに産業衛生の専門家として活動しています。堀礼子准教授は、心身医学や睡眠医学を中心に研究していますが、そこから発展して、職場のストレス、またストレスと循環器疾患との関連についての検討を行っております。また、梅村講師は浴室の温度と事故に着目した研究など、身近な環境と疾患に関わる研究を実施するとともに、バングラディシュでの健康増進に関わるプロジェクトなどにも参加しています。松永昌宏講師は、幸福感などに着目し、心理社会的な視点で、また生理学的なアプローチで健康との関連を検討しています。

私は、山梨県甲州市で30年近く継続している母子保健縦断研究に関わり、妊娠中の喫煙と胎児、生まれてきた児の発育などを検討してきました。また、環境省の全国調査であるエコチル調査にも実務、研究の両面から関わってきました。現在では、和歌山県立医科大学との共同研究で、和歌山県御坊市を中心とした地域で、喫煙対策を軸とした健康づくりを、市や保健所、医師会とともに行い、データを収集しています。今後は、これまで身につけた疫学研究の経験や知識をもとに、地域だけでなく、職域においても、現場で皆さんが抱えている健康問題を解決する支援を、講座一体となって実施していきたいと考えています。また、卒前、卒後教育としても、多様な専門性を持つ講座として、地域や職域における健康を守るための医学・医療の重要性を、さまざまな事例をもとに伝え、健康な社会づくりに貢献できる人材を育成していきたいと考えています。今後も、地方会の皆さまにはいろいろとご指導、ご支援をいただくことになると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

受　賞　報　告

厚生労働大臣功績賞を受賞して

豊田衛生管理者研究会　**加　藤　隆　康**

7月4日に開催された愛知労働局主催の平成28年度安全衛生表彰伝達式におきまして、厚生労働大臣功績賞を受賞することができ大変光栄に思っております。これも、産業衛生学会の先生方のご指導ご鞭撻の賜物と感謝申し上げます。

さて、昭和49年（1974年）にトヨタ自動車に入社し、当時産業医であり管理者でもあった故柏木先生や入谷先生の大変厳しい中にも人間味あふれるご指導を受け、平成18年に子会社のグッドライフデザインに出向・転籍するまで30年に亘り主に衛生管理者として労働衛生関係の業務に携わってきました。また、グッドライフデザインもトヨタ自動車の子会社としては唯一の医療系の会社で中小企業の健康管理業務の受託をしており、その後も10数年の間労働衛生関係の業務に関わることができました。

私が労働衛生業務に就いた昭和50年前後は労働安全衛生法が制定されたとはいえまだまだ問題も多く、有害物質を取り扱う作業場の評価や管理方法の構築が主なテーマでした。当時、社会的に公害問題も大きな話題となっており、そのための環境改善技術は大変進歩し、それに伴って作業環境も著しく改善が進んだように思います。その後、腰痛、引き金付工具による手指障害、VDT作業等の対策を行うため人間工学的な技術を導入することになり、名古屋大学、労働科学研究所の先生方のご指導を頂き、職場で活用できる評価指標の作成とそれを応用した改善技術の開発をしてきました。また、健康管理では、健康データのOA化、海外赴任者の健康管理、AIDS対策、メンタルヘルス、メタボ対策等と幅広く関わってきました。この間、産業衛生学会の先生方には公私共に多方面からのご指導や情報交換をさせていただき、多くの事を学び活用させていただきました。改めて感謝申し上げます。

最近の安全衛生の課題は労働衛生上の問題が多く、複雑で解決に時間のかかるものもあります。高齢化対策、労働衛生関係（特に化学物質）リスクアセスメント、ストレス対策、治療と就業の両立等自社だけでは対応できない場合もあり、産業衛生学会の場を活用し研究者と実務者が情報交換や勉強会等を通じて、協働して問題の早期解決図っていくことが必要であると思います。

微力ではありますが、今後とも少しでもお役に立つことができればと思っております。今後の産業衛生学会のますますのご発展を祈念申しあげます。

愛知労働局長功績賞を受賞して

名古屋市立大学　**上　島　通　浩**

去る7月5日、愛知労働局長功績賞が授与されましたので、ご報告いたします。この賞の趣旨は、地域の中で、地域、団体又は関係事業場における安全衛生活動において指導的立場にあり、当該地域、団体又は関係事業場の安全衛生水準の向上発展に多大な貢献をした個人を表彰することとうかがっています。私の場合、大学という立場で愛知労働局労働衛生指導医を一定期間務め、また、若い時期より業務上災害に関わる請求や健康管理手帳の申請手続き等にも関わっていますが、一方で、地域の労働衛生向上に関しては、私より貢献のはるかに大きい方々が数多くいらっしゃいます。そのような先輩の皆様のご活躍により、労働衛生の重要性が社会で広く認知され、自分自身の活動の基盤になっていることを、受賞にあたって改めて意識いたしました。ですから、受賞を光栄に感じると同時に、光が当たるかどうかに関係なく日々の活動に地道な努力を積み重ねていらっしゃる方々に、思いを馳せました。

今回の受賞は、今後、より強い使命感・責任感を持って社会の中で役割を果たしなさい、というメッセージであると受け止めております。私の見識はごく限られた学問領域に限られていますので、勉強を続けこれからも少しずつ前に進みたいと考えている所存です。よろしくお願い申し上げます。

事　務　局　か　ら

地方会理事会

平成28年度　第2回理事会

日 時：平成28年9月3日（土）10：00－12：00
場 所：中部大学名古屋キャンパス(6階･610講義室)

【議題】

Ⅰ.前回理事会議事録（案）の確認
Ⅱ.報告事項
1）本部理事会　2）　地方会事務局報告事項（会員状況）　3）部会・研究会　4）委員会　5）愛知県医師会産業保健部会　6）地方会ニュース　7）平成28年度総会ならびに研修会の開催報告　8）　平成28年度地方会学会準備状況　9）選挙について　10）平成28年度愛知県医師会産業保健部会委員　11）関連学会　12）その他
Ⅲ.協議事項
1）　衛生管理業務研究会解散に伴う運営費寄附について　2）　その他

平成28年度　第3回理事会

日 時：平成28年12月17日（土）10：00－12：00
場 所：中部大学名古屋キャンパス(6階･610講義室)

【議題】

Ⅰ.前回理事会議事録（案）の確認
Ⅱ.報告事項
1）本部理事会　2）地方会事務局報告事項（会員状況）　3）選挙結果　4）平成29年度予算　5）平成28年度地方会学会開催報告　6）部会・研究会　7）委員会　8）愛知県医師会産業保健部会　9）地方会ニュース　10）第29回産業保健スタッフのための研修会準備状況　11）平成29年度総会ならびに研修会準備状況　12）平成29年度地方会学会の準備状況　13）関連学会　14）その他
Ⅲ.協議事項
1）地方会の運営　2）その他

会員の異動

【新入・再入会員】※は学生会員を示す

愛知①鈴木 孝太（愛知医科大学医学部衛生学講座）②小池 学（ブラザー工業㈱）③大羽 哲司（㈱グッドライフデザイン）④松尾 愛海（アイシン精機㈱）⑤児玉 裕子（オリエンタル労働衛生協会）⑥山下 素弘（㈱大同分析リサーチ）⑦立木 亜由美（㈱アドヴィックス）⑧日置 久視（専門学校 日本聴能言語福祉学院）⑨大倉 暖（三菱電機㈱名古屋製作所）⑩丹羽 文子（名古屋市職員共済組合）⑪山科 李香（アビームシステムズ㈱）⑫西澤 康平（全国健康保険協会）⑬土田 大祐（全国健康保険協会）⑭近藤 晃弘（三菱名古屋病院）⑮梶原 孟仁※（名古屋大学大学院 医学系研究科 環境労働衛生学）⑯赤羽 八重子（㈱ソシオネクスト）⑰押野 玲奈※（名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学⑱李 香※（名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学）

三重①大江 美来（パナソニックエコソリューションズ電材三重㈱）②花井 理子（㈱東芝 四日市工場）③古川 智恵（四日市看護医療大学）④杉野 美由紀（松阪市民病院）⑤河本 陽子（東芝 三重工場）

岐阜①渡辺 和雄（医療法人香柏会渡辺内科クリニック）②伊藤 綾子（モアレディスクリニック）

静岡①山田 由美子（ジヤトコ㈱）②泉地 郁乃（プライムアースEVエナジー㈱）③梶山 尚美（プライムアースEVエナジー㈱）④山崎 加帆里（キヤノン㈱）⑤船越 亜希子（聖隷健康診断センター）⑥谷口 正美（静岡市立清水病院）⑦伊東 香苗（㈱資生堂 掛川工場）⑧田中 國義（浜松医療センター）⑨内田 志乃（㈱明電舎 沼津事業所）

【転入会員】

愛知①石原 慶子（東芝ヒューマンアセットサービス㈱）九州より

【退会会員】

愛知①加藤 健一②丹羽 文子（名古屋市職員共済組合）③赤川 景子（豊橋鉄道㈱）④伊藤 亜由（西日本電信電話㈱）

三重①橋本 泉（住友電装㈱鈴鹿製作所）

岐阜①桑原 恵子（NTT西日本東海健康管理センタ）

静岡①文岩 浩崇 ②稲吉 大（東海旅客鉄道㈱静岡健康管理センター）

【転出会員】

愛知①瀧口 好三（新日鐵住金㈱名古屋製鐵所）関東へ②大森 美保（キヤノンマーケティングジャパン㈱）九州へ③高橋 玲（中部健康管理センター）関東へ④河野 由理（名古屋大学医学部保健学科看護学専攻）近畿へ

三重①田代 廣隆（三菱化学㈱）東北へ

静岡①堂元 有紀（スズキ㈱）近畿へ②上原 明彦（ヤマハ㈱環境安全管理室）北海道へ

【地方会内異動】

静岡→三重①山下 朋子（㈱ダイヘン 三重事業所）

愛知→岐阜①石田 猛大（岐阜大学医学系研究科 産業衛生学）

静岡→愛知①平野 祐子（東海旅客鉄道㈱健康管理センター）

平成 28 年度日本産業衛生学会東海地方会選挙結果

1. 会長選挙当選者

斉藤 政彦

2. 代議員選挙当選者（県別、50 音順）

（愛知県：定数 34）

石川 浩二	市丸 麻衣子	伊藤 由起	岩田 全充
上原 正道	浦上 年彦	榎原 毅	大久保 浩司
加藤 一夫	加藤 隆康	上島 通浩	小林 章雄
斉藤 政彦	酒井 潔	榊原 久孝	榊原 洋子
佐藤 博貴	白石 知子	杉本 日出子	城 憲秀
塚田 月美	内藤 久雄	中元 健吾	那須 民江
西谷 直子	久永 直見	松浦 清恵	水口 要平
村﨑 元五	守田 祐作	八谷 寛	山本 美幸
渡井 いずみ	渡邊 美寿津		

（静岡県：定数 17）

青山 行彦	赤津 順一	足立 留美子	池田 友紀子
内野 文吾	遠田 和彦	尾島 俊之	近藤 祥
清水 正昭	菅沼 要一郎	杉 敏彦	巽 あさみ
土屋 眞知子	中村 美詠子	西 賢一郎	三浦 真美
山本 誠			

（三重県：定数 9）

河南 文子	北山 勉	後藤 由紀	後藤 義明
酒井 秀精	笠島 茂	高崎 正子	平工 雄介
古田 さとり			

（岐阜県：定数 5）

井奈波 良一	梅津 美香	黒川 淳一	成定 明彦
牧野 茂徳			

3. 本部理事候補者選挙当選者（3 名・50 音順）

上島 通浩　斉藤 政彦　笠島 茂

これからの行事予定

第 27 回日本疫学会学術総会

会期：平成29年1月25日（水）～27日（金）
会場：ベルクラシック甲府（山梨）

第 58 回産業精神衛生研究会

（合同開催：第 89 回東海地方会職場ストレス研究会）

日　時：平成29年2月11日（土）10：00～18：15
会　場：名古屋国際会議場2号館3階
テーマ：メンタルヘルスにおける若者への支援のために

第 29 回産業保健スタッフのための研修会

日　時：平成29年2月25日（土）13：00～16：30
会　場：安保ホール 301室
（名古屋駅から徒歩3分）
テーマ：治療と職業生活の両立支援

第 87 回日本衛生学会学術総会

会　期：平成29年3月26日（日）～28日（火）
会　場：フェニックスシーガイアリゾート（宮崎）

第 90 回日本産業衛生学会

会　期：平成29年5月11日（木）～13日（土）
会　場：東京ビッグサイトTFTビル
テーマ：産業保健近未来図

編　集　後　記

「安全衛生に係る優良事業場、団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰：功績賞」を加藤隆康先生が受賞されました。「愛知労働局長功績賞」を上島通浩先生が受賞されました。誠におめでとうございました。広く社会全体の安全衛生水準向上へのご功績の結実と存じます。今後とも、ご指導よろしくお願いします。

活き活きした安全衛生記事こそ、私たちの「やる気スイッチ」となるでしょう。魅力ある安全衛生活動に「東海地方会ニュース」は欠かせませんね。

愛知教育大学　榊原　洋子

東海地方会ニュース
編集委員長　：西谷　直子（椙山女学園大学）
副編集委員長：池田友紀子（キヤノン）
編集委員　　：赤津　順一（日本予防医学協会）
榎原　　毅（名古屋市立大学）
河南　文子（富士電機）
後藤　由紀（四日市看護医療大学）
榊原　洋子（愛知教育大学）
菅沼要一郎（浜松ホトニクス）
城　　憲秀（中部大学）
守田　祐作（新日鐵住金）
山本　　誠（ヤマハ）

東海地方会事務局
〒 480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1
愛知医科大学医学部衛生学講座内
TEL：(0561)62-3580 FAX：(0561)62-3580
E-mail：aratokai@aichi-med-u.ac.jp

印刷・製本
富士ゼロックスサービスリンク株式会社
TEL：(052)412-1461　FAX：(052)412-4149